

第2節 小学校5年生、中学校2年生の児童・生徒への調査

1 基礎データ

回答者数

		男子	女子	合計
小学校 (5年生)	H11			464
	H23	641	635	1,277
中学校 (2年生)	H11			491
	H23	692	693	1,386

※小学校・中学校のH23合計には、性別不明各1人を含む。

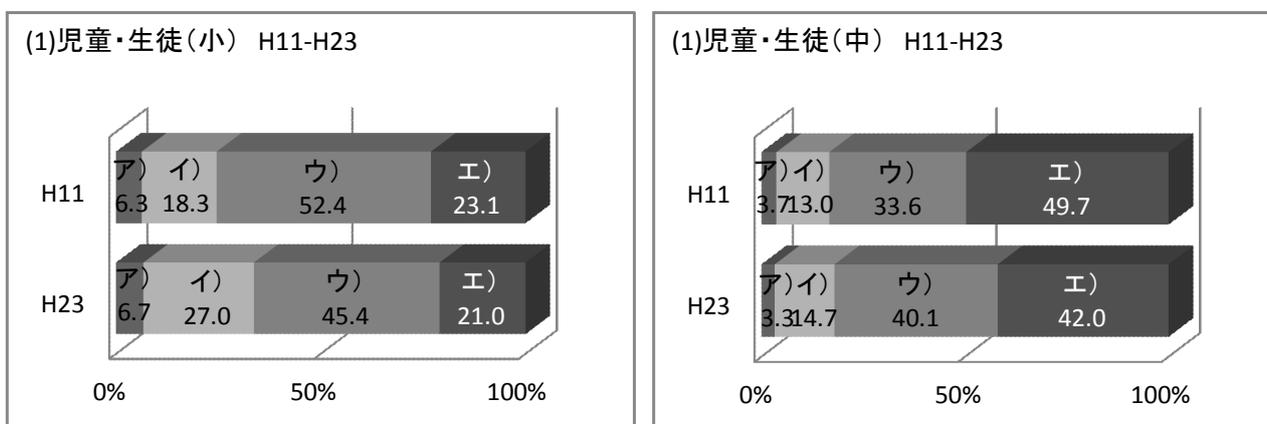
調査対象校

平成11年度 小学校 15校 中学校 15校 (資料編 p2 参照)
 平成23年度 小学校 51校 中学校 46校 (使用編 p3 参照)

2 あなたとあなたの住んでいる地域との関わり方について

(1)あなたは、この1年間に、地域の山、川、海などの自然の中で、虫や草花の観察や魚とりなどの遊びをしたことがありますか。次の中から1つ選んでください。

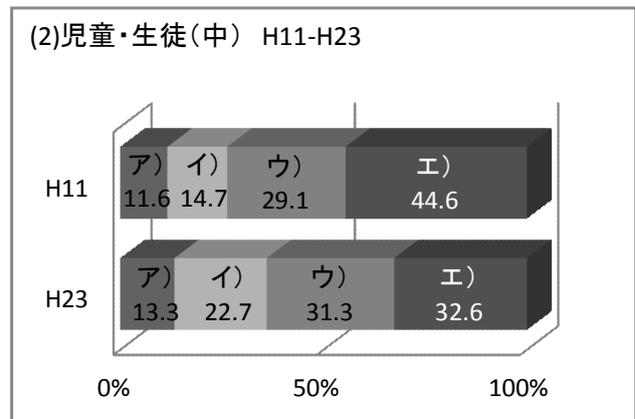
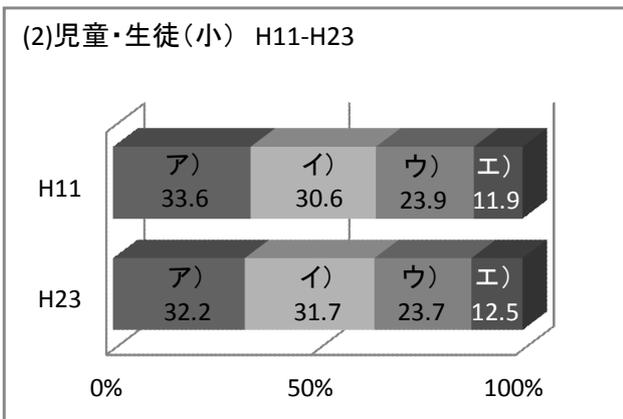
ア)いつもしている イ)時々している ウ)たまにすることがある エ)することがない



前回調査に比べると、小学生・中学生ともに、「いつもしている」・「時々している」・「たまにすることがある」が増え、「することがない」が減っている。特に中学生は、「することがない」が49.7%から42.0%と8ポイント近く減少している。

(2)あなたは、この1年、地域で行われた行事やクリーンアップなどの地域活動に参加していますか。次の中から1つ選んでください。

- ア)いつも参加している イ)時々参加している ウ)たまに参加している エ)参加したことがない



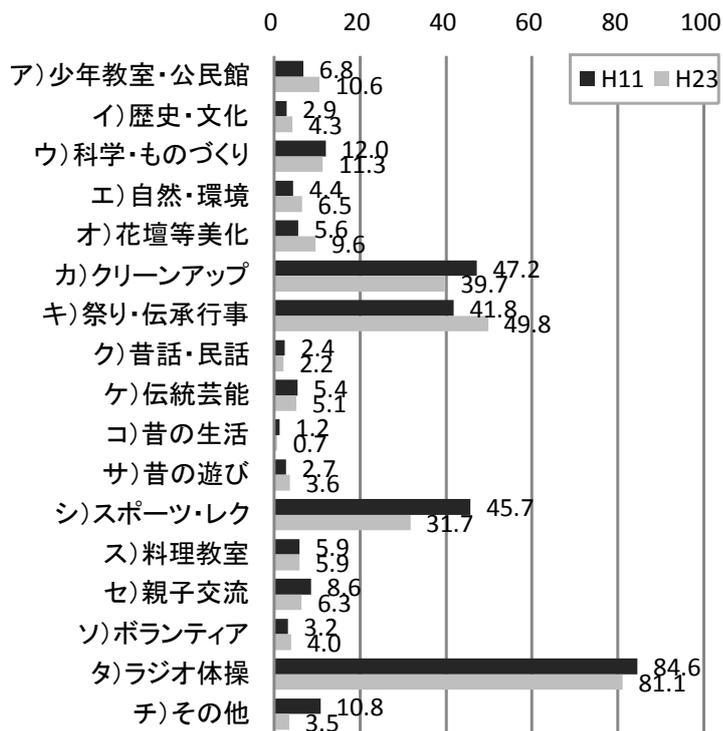
小学生は、前回調査に比べて大きな変化はないが、中学生は「参加したことがない」割合が、44.6%から32.6%へと12ポイントも減少している。

(3)前問(2)で ア) イ) ウ)と答えた人(地域行事・活動に参加したことがある人)だけ答えてください。

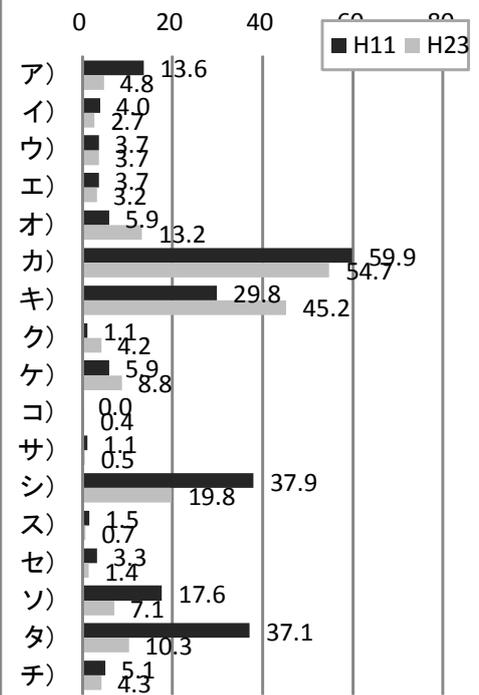
①あなたが参加したのはどのような内容の活動ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

- ア)少年教室・少年公民館活動 イ)ふるさとの歴史や文化を調べる見学や活動
 ウ)科学教室・ものづくり教室 エ)ふるさとの自然や環境について学ぶ会
 オ)花壇づくりなどの美化活動 カ)クリーンアップ活動 キ)祭りや古くから伝わる行事
 ク)昔話・民話などを聞く会 ケ)古くから伝わる芸能などの練習 コ)昔の生活を知る会
 サ)昔の遊びを体験する会 シ)スポーツレクリエーション(キャンプ、盆踊りを含む)
 ス)手作り料理教室 セ)親子座談会・親と子のつどい ソ)福祉施設などでのボランティア活動
 タ)朝のラジオ体操 チ)その他

(3)①児童・生徒(小) H11-H23



(3)①児童・生徒(中) H11-H23

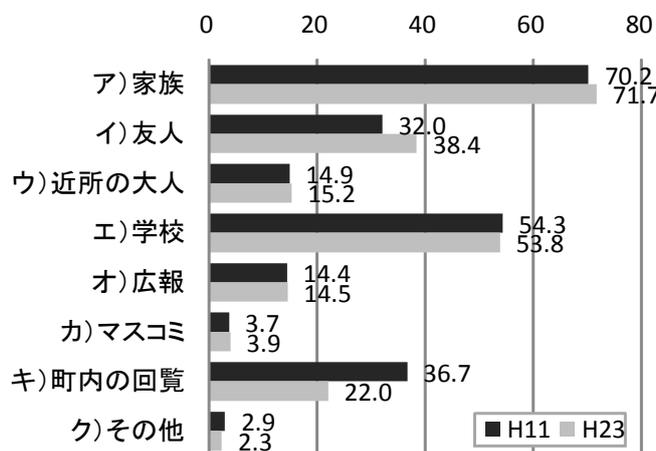


小学生・中学生とも上位4項目は、両年度ともほぼ同じであるが、小学生では、「スポーツ・レク」が減り、「祭り・伝承行事」が増えている。中学生は、「スポーツ・レク」・「ラジオ体操」が大きく減少し、「祭り・伝承行事」・「花壇等美化」が増えている。

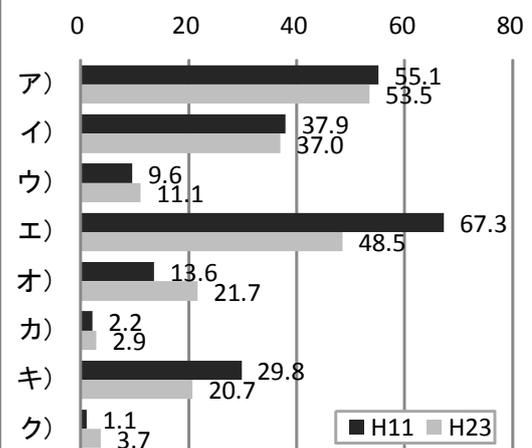
②あなたは、その行事や活動をどのようにして知りましたか。3つまで選んでください。

- ア)家族から聞いて イ)友だちから聞いて ウ)近所の大人から聞いて
 エ)学校からのお知らせで オ)市町村の広報等で カ)新聞・テレビ等マスコミの情報で
 キ)町内の回覧等で ク)その他

(3)②児童・生徒(小) H11-H23



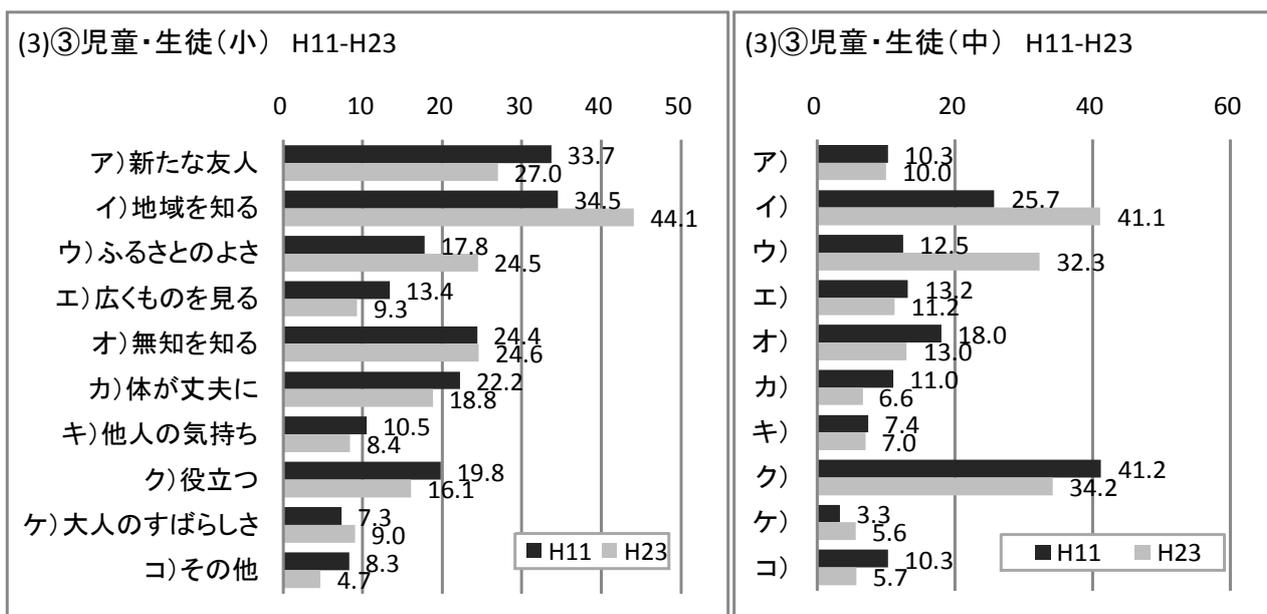
(3)②児童・生徒(中) H11-H23



小学生では、「町内の回覧」が大きく減少している。中学生でも、「町内の回覧」が減少し、「学校」も大きく減少している。

③あなたが行事や活動に参加してよかったと思うことを次の中からすべて選んでください。

- ア)新しい友だちができた イ)地域のいろいろなことを知った ウ)ふるさとのよさがわかった
 エ)広くものを見ることができるようになった オ)わからないことがたくさんあることに気づいた
 カ)身体が丈夫になった キ)他人の気持ちがわかるようになった ク)世の中の役に立つことができた
 ケ)大人のすばらしさを発見した コ)その他

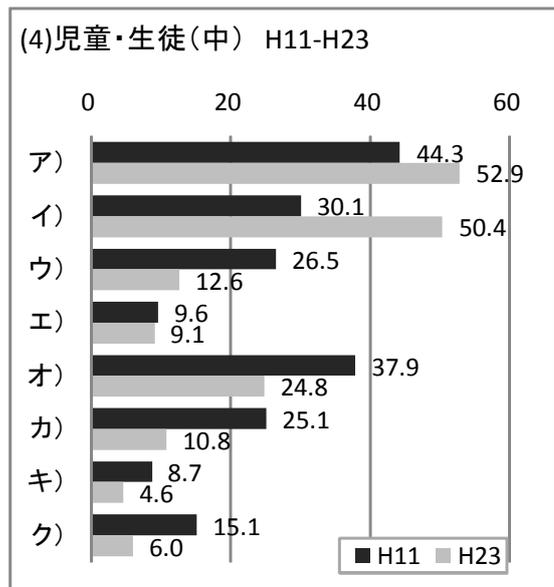
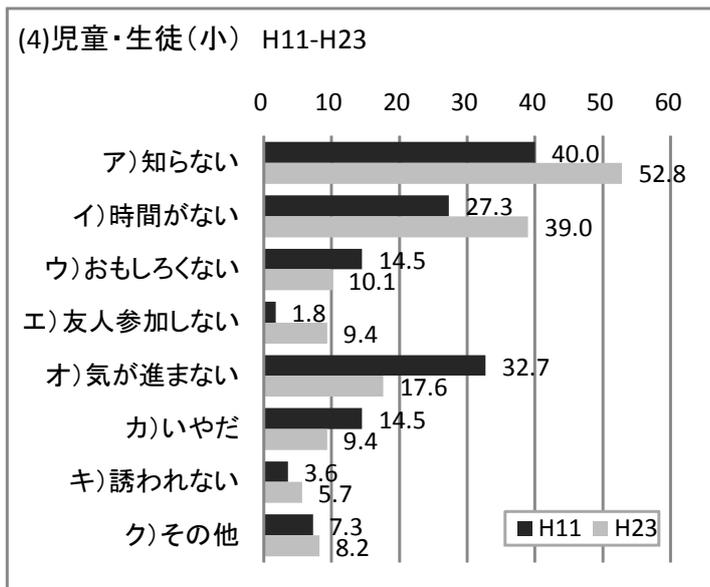


小学生・中学生ともに、「地域を知る」・「ふるさとのよさ」といった項目が増加しており、その傾向は中学生に顕著である。

(4)前問(2)で、エ)を選んだ人(地域行事・活動に参加したことがない人)だけ教えてください。

あなたが地域行事・活動に参加しなかったのはなぜですか。その理由をすべて選んでください。

- ア)知らなかったから イ)時間が合わない(時間がない)から ウ)おもしろくないから
 エ)友だちが参加しないから オ)気が進まないから カ)参加するのがいやだから
 キ)誰からも誘われないから ク)その他



小学生・中学生ともに、「知らない」・「時間がない」が増加し、「気が進まない」「いやだ」といった項目が減少している。

◆市町村教育委員会用調査『(4) **児童・生徒用**「あなたとあなたの住んでいる地域との関わり方について」(1)～(4)の結果について、感想・意見・分析・今後の方針等をご自由にお書きください。』の回答から

No	市町村名	内 容
1	鹿角市	本市は自然が豊かではあるが、虫や草花の観察などの自然体験がそれほど多くないと感じる一方、クリーンアップなどの地域活動への参加率が高い。伝統芸能への参加が比較的多いことから、地域の結びつきが強いと思われる。
2	小坂町	自然の中で遊んでいない様子が如実に表れ、「することがない」という児童・生徒がいることに正直驚いた。が地域のクリーンナップや祭りには参加している様子がわかりほっとした。しかし、中学生に関しては学校以外の活動への関心のなさが際だっている。 小学校、中学校、ともにであるが、部活動だけの生活である。土日も毎週のように練習試合があり、子どもたちに時間もゆとりもないように見受けられる。学校や家庭と、「子どもたちに必要な体験」について意見交換をし、お互いに理解したうえで支援できる事業を展開していきたい。
3	大館市	参加する地域行事等の種類や割合には大きな変化はなく、また地域行事等に求めるものもあまり変わっていないと感じている。一方で行事そのものも知らなかった人の割合が多くなっており、地域での情報伝達・つながりの力が低下しているように感じている。
4	北秋田市	地域の行事やクリーンアップなどへの参加率とは反対に、自然の中での遊び

		<p>体験が少ない理由に、家庭での遊び体系の変化や、自然のなかで親子で過ごす体験が減ったことがあるのではないかと考える。</p>
5	上小阿仁村	<p>比較的地域活動へは小中学生共に積極的に参加しているようである。自然の中での遊びは、中学生になるほど減少傾向になるので、小学生のうちに多くの経験をした方が良いのではないかと考える。</p> <p>行事等の把握方法については、家族、学校を通して知る方法がほとんどのため、行政・家族・学校の連携が、今後より一層求められる。</p>
6	能代市	<p>自然体験活動や地域行事への参加について、前回調査と比較して、頻度はあがっているが、体験している子どもの割合にほとんど変化がない。実際、体験活動講座を企画実施しても参加する児童が固定化している傾向にあり、底辺拡大に取り組まなくてはならないと考える。</p> <p>活動内容について、子どもたちの地域活動への参加や関わり方は、学校の考え方や取組によるところが大きい。また、今の小学生は、スポーツ少年団の低年齢化、活動の過熱化なども要因となって、とかく土日、休日に「時間がない」という現実がある。以上のことから、地域の教育力を活かす取組は学校を場として実施していくほうが効果的だと考えているが、学校教育とどのように連携を図っていくべきかが課題となっている。</p> <p>中学生を対象とする事業が現在ほとんど実施されておらず、課題となっている。</p>
7	藤里町	<p>地域の行事や活動への参加について、学校を通して案内することで参加する児童・生徒が多くなることや、家族からの進めで参加していることが分かった。今後は参加していない児童・生徒に対しての、「知らなかった」「面白くなかった」を解消できるための、わかりやすい文書の作成、楽しさを伝えられるような案内の作成を心がけたい。</p>
8	三種町	<p>全県の結果も、当町の結果もほぼ同じ内容となっているため、課題等は県が思っていることと同じことがあげられるのではないのでしょうか？</p>
10	秋田市	<p>秋田市の小中学生については、環境の問題もあるが外で遊んだり活動することが少なくなってきた。外で遊んだり活動することが少ないと地域の良さがわからなかったり、地域への愛着や想いも育たない。クリーンアップなどの地域活動に参加すれば地域の良さがわかったり、地域の人と知り合ったりできる。</p> <p>参加したいがきっかけがなかったり情報が届いていない小中学生もいる。地域の素材を活かした企画を考えていきたい。地域活動にしても実施する企画にしても、どうやって小中学生に興味を持たせ参加させるかが重要な課題。</p>
11	男鹿市	<p>(1)について、美しい自然環境が整い、日本ジオパークにも認定されている当市で、自然の中で遊んでいるという児童の割合が高かったことは非常に好ましく思える。生徒の割合は全県水準よりは高いものの、児童の結果と比較すると「全くすることがない」という割合が大幅に増えているのが気になる。</p> <p>(2)(3)(4)について、各地区で男鹿のなまはげ、東湖八坂神社祭の続人行事、福米沢送り盆行事と多数の伝承行事がある当市であるが、(3)調査の(キ)祭り伝承行事の割合が、前回調査調査と比較し、児童、生徒ともに減少して</p>

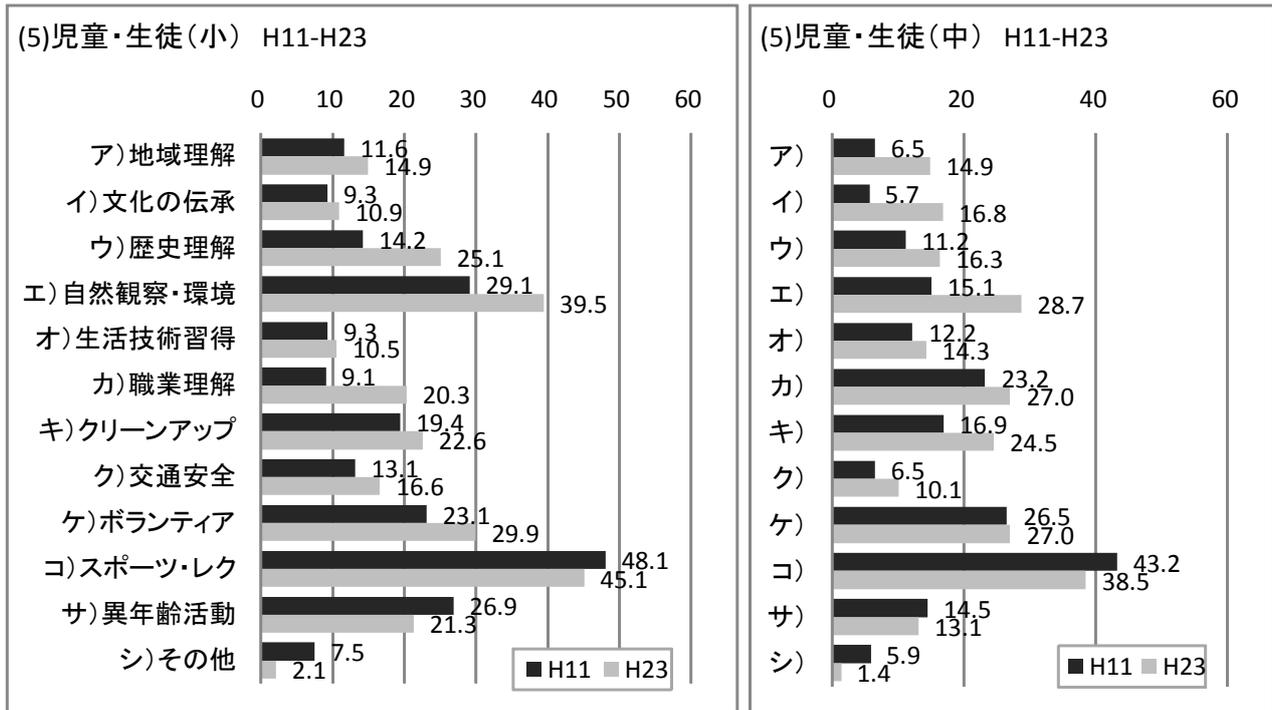
		<p>いる。特に生徒の調査結果では、約1/2になっており、気がかりである。</p> <p>(4)について、ア)の「知らなかったから地域行事に参加したことがない。」と答えている児童・生徒の割合が多く、効果的なPRの必要性を感じている。</p>
13	五城目町	<p>山や川などの豊かな自然が残っており、90%を超える児童が親しんでいることは喜ばしいが、その頻度が今以上に上がるよう自然体験事業等の充実を図りたい。また、各地域には盆踊りや番楽、ささら、神社の祭典においては子供神輿なども受け継がれており、これらの行事に参加することにより、郷土の大切な文化の継承につながると思う。クリーンアップ等のボランティア活動も自分の住んでいる地域を新たに見つめ直す良い機会となる。これら自然や伝統文化にふれ、地域活動に参加することは郷土愛の醸成につながり、将来的には過疎への歯止めになるものとする。</p>
14	八郎潟町	<p>自然体験活動・ボランティア活動は、青少年の健全な育成にとっては大切なこと。特に(1)の結果の「することがない」と回答した割合が多いのに驚いた。家族や子ども会での体験の場が減少傾向なので、行政としてこのような体験活動の場を積極的に設けなければいけない。</p>
15	井川町	<p>当町は、1町1小学校1中学校という小さな自治体であり、学校と地域、子どもと地域の距離(物理的のみならず)が近く、地域行事に参加する意識が子どもたちに育まれている。学校・スポーツ少年団活動や部活動・地域活動、それぞれに子どもたちが関わっていることは、子どもの成長にとってもいい効果があると思う。</p>
17	由利本荘市	<p>行事や活動に参加することで、地域のことを知るようになったり、知らないことが多いことに気づきよかったとする児童生徒の思いを、より広く紹介することができれば、参加しなかった児童生徒の「気がすすまない」「おもしろくない」とする気持ちに働きかけることができるのではないかと。</p>
18	にかほ市	<p>小・中ともに様々な地域の活動について、知らないので参加しなかったという回答や、親から聞いたという回答が前回調査よりかなり減っていることから、そもそも親と地域のかかわりが薄れてきたのではと分析する。小学生も中学生も時間がないという回答が目立つ。大学進学が当然のような風潮がでてきたため、受験戦争に拍車がかかり、部活等以外でも忙しさが増しているのかもしれない。知らないので参加しないという回答から、周知方法を工夫する必要がある。広報・市HP掲載のほか、チラシ等のデザインを工夫していくようにする。</p>
19	大仙市	<p>前回調査に比べ、一層少子化の深化により各児童・生徒向け事業の見直しあるいは廃止など、参加機会そのものの減少から、連動して(1)並びに(2)の参加の有無を問う設問とも減少という結果が予測されたが、中学校に関しては逆に平成11年度より参加生徒のパーセンテージが増となるという結果が示されており、各地域や学校の働き掛けなどがこの結果に結びついたものと思われる。実際参加した後のことについての設問(3)の③についてだが、前回調査時と比較し「世の中の役に立つことができた」と思う児童・生徒のパーセンテージが大幅な減となったことは、事業参加後の評価が十分に行われていないのではないかと懸念され、今後は参加した方が「また参加したい」という意欲</p>

		を持ち、継続して参加いただけるような、自信・充足感を持てる取り組みと評価が必要に思う。
20	仙北市	<p>全県区結果と仙北市は同じような傾向で、特に夏休み期間における体験活動が主ではないか。</p> <p>地域の行事や活動に参加して、自分の住んでいる地域の良さを知り得たことは大きな収穫であったろう。</p>
21	美郷町	<p>全県に比べ美郷町は地域活動にいつも参加している人が多いのが嬉しい結果です。30%の参加したことがない人をどうするか課題。ラジオ体操は全員参加しているはずだけれど・・・。</p>
22	横手市	<p>(1)の自然体験については、小・中学校とも「することがない」と回答した子どもが、全県平均を上回っており、H22年度に設置した「釣りキチ三平の里体験学習館」の利用を推進したい。</p> <p>(2)の地域活動の参加については、小・中学校とも「参加したことがない」と回答した子どもが、全県平均を下回っており全体としてよい傾向と思われる。比較・分析を行うには、調査対象校がH11年度と同じ集計結果があれば、もっとよかったのではないか。</p>
23	湯沢市	<p>地域行事の参加については概ね親子交流、スポーツ交流への参加が減少し、お祭りや伝統行事への参加が増加しており、それらに参加したことにより自分が住んでいる地域のことを知ることができて良かったと感じる子どもが増している。</p> <p>また、子どもが地域行事を「知らない」の増加や「近所の大人から知った」の減少などが見られることから地域内での周知不足、コミュニケーションの低下が考えられる。</p>
24	羽後町	<p>自然に囲まれた当町において、自然の中で遊んだことのない児童が、全県の割合よりやや高いのが意外であった。また、中学生になると部活動等で忙しくなるためか、40%の生徒が自然の中で遊ぶことがなくなるようである。</p> <p>地域行事については、いつも参加する児童の割合が全県と比べてかなり高い。しかし、中学生になると地域行事への参加率は高いものの、いつも参加する生徒の割合は極端に下がる。</p> <p>地域行事等を家族から聞いたと答えた児童・生徒の割合が高かったことから、家庭でのコミュニケーションがうまく図られていることがうかがえる。</p>
25	東成瀬村	<p>以前に比べ自然の中で遊ぶことは少なくなってきたと感じていたが、結果を見ると多くの児童生徒が自然の中で遊んだ経験があることがわかった。</p> <p>地域との関わりについては、保護者が学校行事等へ積極的に参加する傾向が高いため、その姿を見ている子どもたちも地域の行事や活動に積極的に参加しているものと感じている。参加しなかった子どもについても、知らなかったや時間が合わないとの理由であり、地域との関わりに消極的な考えを持っていないことがわかった。</p>

3 これからの地域行事・活動

(5)あなたは、今後どんな地域活動があればよいと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。

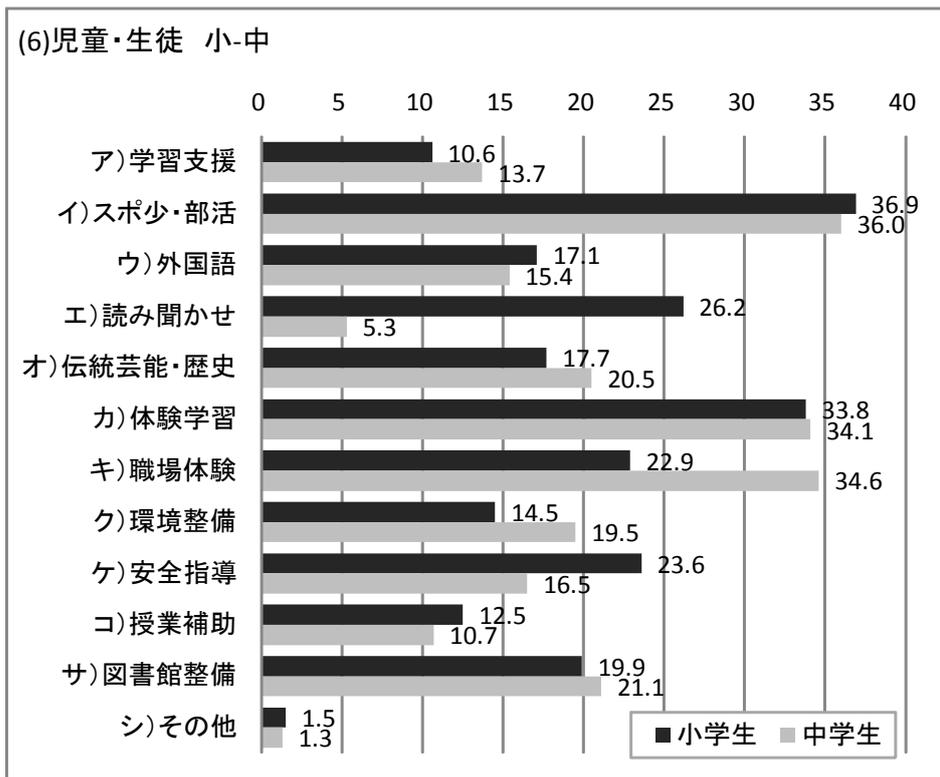
- ア) 地域を理解する活動 イ) 地域文化の^{でんしよ}伝承に関する活動 ウ) 地域の歴史を知る活動
 エ) 自然観察、^{かんきよ}環境に関する活動 オ) 生活技術の^{しゆとく}習得に関する活動
 カ) 職業や仕事について知る活動 キ) 地域のクリーンアップなどの活動 ク) 交通安全に関する活動
 ケ) ボランティア活動 コ) スポーツレクリエーション活動 サ) 年齢の^{れい}違う友だちとの活動
 シ) その他



小学生・中学生とも、「スポーツ・レク」「異年齢活動」以外の項目では、あればよいと思う方が増加している。特に、小学生では「歴史理解」「自然観察・環境」「職業理解」、中学生では、「文化の伝承」「自然観察・環境」の項目がそれぞれ10ポイント以上増加している。

(6)あなたは、学校生活の中で地域の人たちにどのような手伝いをして欲しいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

- ア) 長期休業中などの学習支援 イ) スポ少・部活動などの指導 ウ) 外国語活動の支援
 エ) 読み聞かせなど オ) 伝統芸能や郷土の歴史の伝承 カ) 体験的な学習の支援
 キ) 職場体験の支援 ク) 学校の花壇や環境の整備 ケ) 登下校の安全指導 コ) 学校の授業補助
 サ) 学校図書館の整備 シ) その他



小学生・中学生ともに、「スポ少・部活」「体験学習」「図書館整備」の項目が多い。小学生では、「読み聞かせ」、中学生では「職場体験」が多いのが特徴である。

◆市町村教育委員会用調査『(5)児童・生徒用「これからの地域行事・活動」(5)～(6)の結果について、感想・意見・分析・今後の方針等をご自由にお書きください。』の回答から

No	市町村名	内 容
1	鹿角市	これからの地域行事・活動については、概ね全県平均と類似しているが、スポ少、部活動指導への地域の人たちへの手伝いの要望が、著しく高い。
2	小坂町	小学生については地域活動も学校支援もスポーツ活動、スポ少支援がダントツであり、スポ少の過熱ぶりがわかるし、生活の中心になっているよう。一方で地域理解や自然観察・環境、歴史理解、職業理解という活動を求めている面もある。地域の方、大人とたくさん接する、話すことで十分に学べる、理解出来ることもあるのでは。チョコボラをもっと広めて、地域の方をもっと巻き込んだ事業を展開したい。 また中学生で学習支援や体験学習の手伝いを求めていることは、チョット以外でもあるが、意欲が有りうれしい結果。中学生の事業が皆無なので子ども教室の拡大版、またはボランティアとして事業参画するなど(高校生も含めて)検討したい。

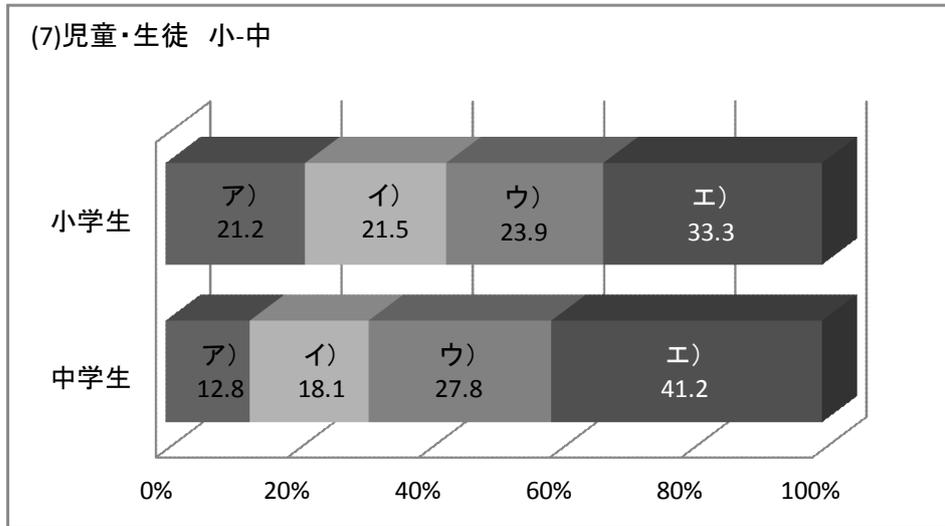
3	大館市	小学校アンケートで職業理解に関する活動希望が増加している。現在市では民間団体や高等教育機関と連携した「ふるさと・キャリア教育」を推進しており、今後も引き続き力を入れていきたい。
4	北秋田市	(5)に関して ・今後あればよい地域活動の中に、「ボランティア活動」が入っているところに注目したい。 (6)に関して ・スポーツ、伝承芸能、体験学習、安全指導など、学校支援事業等とおして地域の人と接しており、今後も期待していると考えられる。 読み聞かせや図書館整備に関して希望が多いことは、課題としてとらえたい。
5	上小阿仁村	小・中学生ともに自然観察・環境の分野には興味があるようなので、引き続き体験学習等の行事を計画したい。 また、中学生は先般復活した八木沢番楽の影響もあるためか、文化の伝承への関心が高いため、各団体と協力して事業の実施にあたる予定である。
7	藤里町	自然観察や文化の伝承、スポーツに対する活動の希望が多かったが、ふるさと教育体験学習や少年教室への参加で対応できると思う。
8	三種町	子どもたちの興味が、自然やボランティア、スポーツなどに傾倒している気がするが、地域行事や活動はその地域の環境等に密接に関わっているので、うまく宣伝？誘導すれば、興味の無い分野もうまく取り入れられないのかと感じた。
10	秋田市	小中学生の意見や要望を取り込んだ企画も大事だが、地域の特色を活かした企画も組み込んでいきたい。
11	男鹿市	自然観察、環境に関する活動の参加希望が高いことがわかった。夏休み版放課後子ども教室で行っている、自然体験教室に是非参加していただきたい。
13	五城目町	各自治会や地区公民館の協力を得ながら、要望の高い自然観察等やスポーツレクリエーション活動、世代間交流等の事業を検討していきたい。また、学校生活における地域の人たちの関わりについては、クラブ活動の中で、生け花や茶道、囲碁・将棋等の指導をしているところであるが、アンケート結果を精査しながら今後の対応につなげていきたい。
14	八郎潟町	スポーツ・レク、自然観察などの体験活動に関係する要望は多いのは予想どおりだった。行政としては、これらの要望にどのように応えていったらいいのかを真剣に考えなければいけない。
15	井川町	児童・生徒の望む地域活動、地域の人に手伝ってほしい項目の結果など、今後の事業の企画実施の参考にしたい。
17	由利本荘市	児童・生徒は、地域に自然や人材等で恵まれた環境にあることを認識している。そのことがもっとスポーツ、各種体験活動あるいは日常の図書館整備等に生かされて欲しいと思っている様子がうかがえる。逆に学校がそれらの地域素材を生かしきれていないこともあるかもしれない。さらなる連携が必要と思われる。
18	にかほ市	本市は全県より比較的自然豊かな環境にあるが、小学生のほうで地域活動では自然観察・環境についての希望が強いのが意外だった。自然観察分野においては、市内で活動しているグループもあるため、彼等に依頼して小学生向けの自然観察会などを企画していくのも良いかと思う。

19	大仙市	<p>(5)の設問に関して共通していたのが、「スポーツ・レクリエーション」に関する活動を求める意見が、児童・生徒とも大幅に減という結果となり、これは現在のスポーツ・レクリエーション関連で展開している事業が一定の満足をいただいているか、または児童・生徒の関心が他のテーマへ移っていることのいずれか、または両方によるものと思われる。細かく分析すると児童については「地域の歴史を知る活動」を求める意見が、中学校生徒に関しては「地域を理解する活動」と「自然観察、環境に関する活動」の更なる参加機会を求める意見が大幅な増となっていたことから、地域活動などに参加し地域のことを知る機会がやはり一律に減少しているのではないかとということが予測された。</p> <p>(6)の設問に関しては中学校生徒については大幅な変動はなく、「スポ少・部活」、「体験学習」、「職場体験」などほぼ均一に地域の支援を期待しており、一方、小学校児童においては前回調査と比較すると「読み聞かせ」や「図書館整備」に強い要望が寄せられるようになっていたことから、この関心の変動を反映した事業の展開の検討が必要である。</p>
20	仙北市	<p>子どもの地域活動の要望や、手伝っていただきたい内容は、数値的に全県区ほぼ等しい傾向にあるようだが、当市の場合、全県区と比較して学校支援や環境整備・体験学習の要望が突出している。今後は、学校支援地域本部や各地域運営体の役割がますます重要になってくるとと思われる。</p>
21	美郷町	<p>自然観察、環境に関する活動があれば良いと答えた方が多かったので、わくわくスクールなどに盛り込みたい。</p>
22	横手市	<p>(5)については、小・中学校とも全県の平均より幅広い分野について、地域活動があればよいという結果が読み取れる。</p>
23	湯沢市	<p>小学生においては、「自然観察」や「伝統芸能や郷土の歴史の伝承」、「ボランティア活動」、中学生におていは「伝統芸能や郷土の歴史の伝承」、「職業や仕事について知る活動」のニーズが増えており、これらを参考に地域と協力し、事業やイベントを企画する必要があると思われる。</p>
24	羽後町	<p>地域の手伝いを望むものとして、小学生では読み聞かせの割合が高く、中学生では部活動の指導を望む割合が高い。</p> <p>いずれも全県の割合よりかなり高く、今後検討が必要である。</p>
25	東成瀬村	<p>これからの地域活動については、スポーツレクリエーション活動が最も多かった。各地域でそうした活動は行っているが、子どもの参加が少ないため、子どもが参加しやすい内容や種目を情報提供するなどの支援も必要と感じる。</p> <p>地域の方々の協力については、学校支援地域本部事業を実施しているためか、その事業内容が多く見られる。今後とも一層の推進を図っていきたい。</p>

4 公民館について

(7)あなたは、この1年間に公民館に何度くらい行きましたか。次の中から1つ選んでください。

ア)10回以上 イ)5回前後 ウ)1, 2回 エ)一度も行っていない

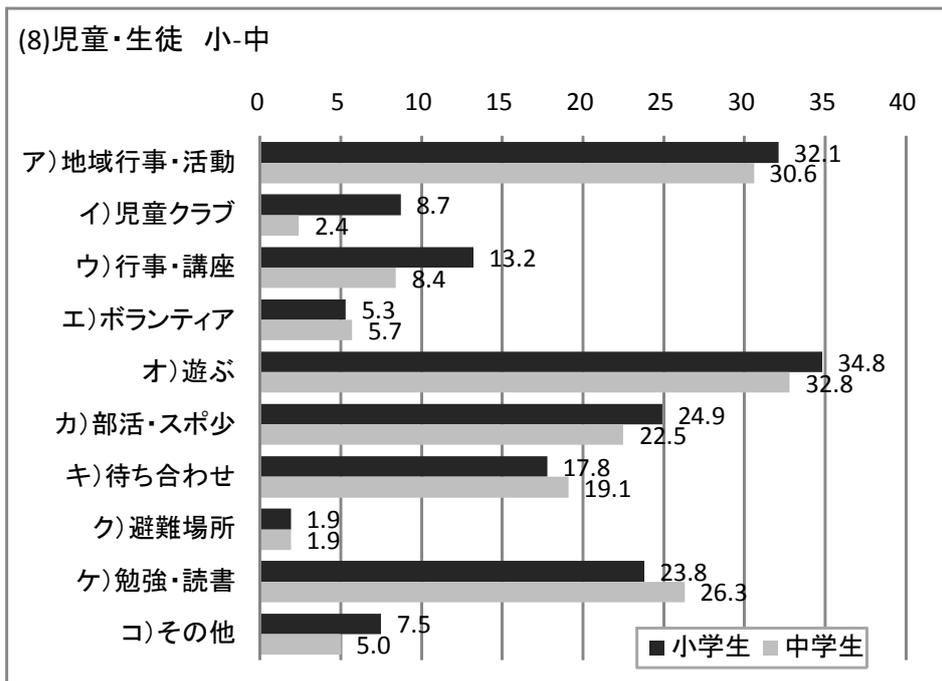


全般的に、小学生の方が中学生よりも公民館に行っている頻度は高い。また、この設問に関しては、児童クラブが設置されていたり、図書館が併設されている市町村があり、市町村による差が大きい。

(8)前問(7)で、ア) イ) ウ)と答えた人(公民館に行った人)だけお答えください。

あなたは、どのような用事で公民館に行きましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

ア)地域行事や活動のため イ)児童クラブなどに参加するため
 ウ)行事や講座(勉強会)に参加するため エ)ボランティア活動をするため オ)遊ぶため
 カ)部活動やスポ少のため キ)家族や友人との待ち合わせのため
 ク)災害・停電の時に避難するため ケ)勉強や読書をするため コ)その他

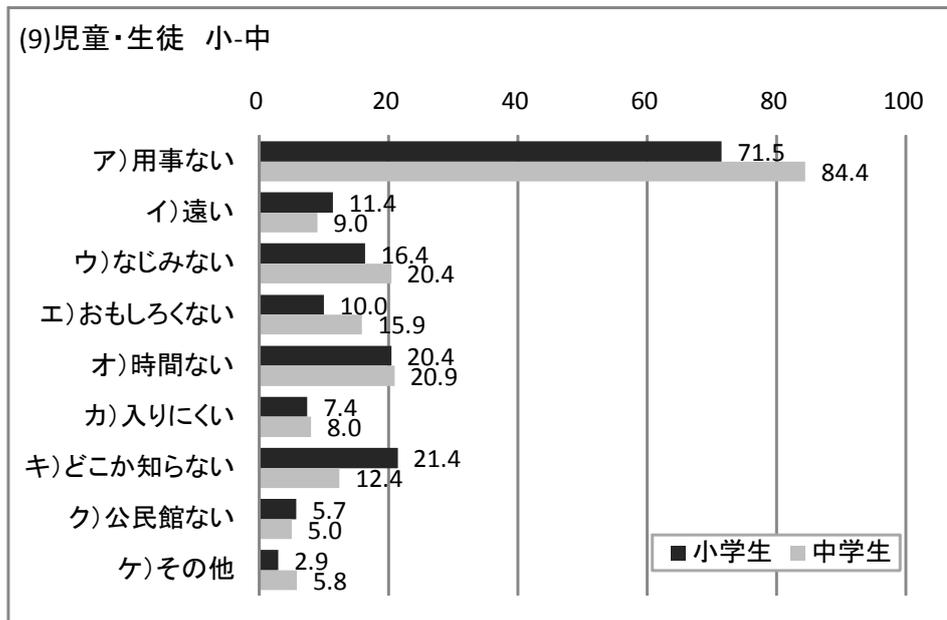


小学生・中学生とも、「遊ぶ」「地域行事・活動」が30%を超え、上位となった。この設問も、市町村による差が大きかった。

(9) 前問(7)で、エ)と答えた人(公民館に行っていない人)だけお答えください。

あなたが公民館に行かなかったのはなぜですか。理由をすべて選んでください。

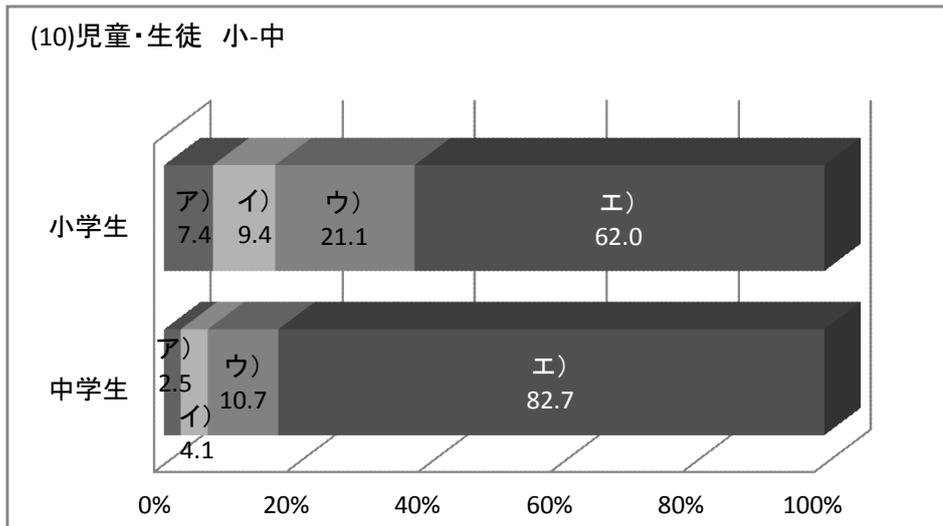
- ア)特に用事がなかったから イ)公民館が遠いから ウ)なじみがないから
 エ)おもしろくなさそうだから オ)時間が合わない(時間がない)から カ)入りにくい雰囲気だから
 キ)公民館がどこにあるか知らないから ク)公民館がないから ケ)その他



小学生・中学生とも、「用事ない」が他の項目に大きく差をつけて1位となった。小学生では、「時間ない」「どこか知らない」、中学生では、「なじみない」「時間ない」が20%を超えている。

(10)あなたは、この1年間に公民館主催の行事や講座(勉強会)に参加したことがありますか。次の中から1つ選んでください。

- ア)行事があるときにはほぼ参加している イ)参加している ウ)1, 2回参加したことがある
 エ)参加したことがない

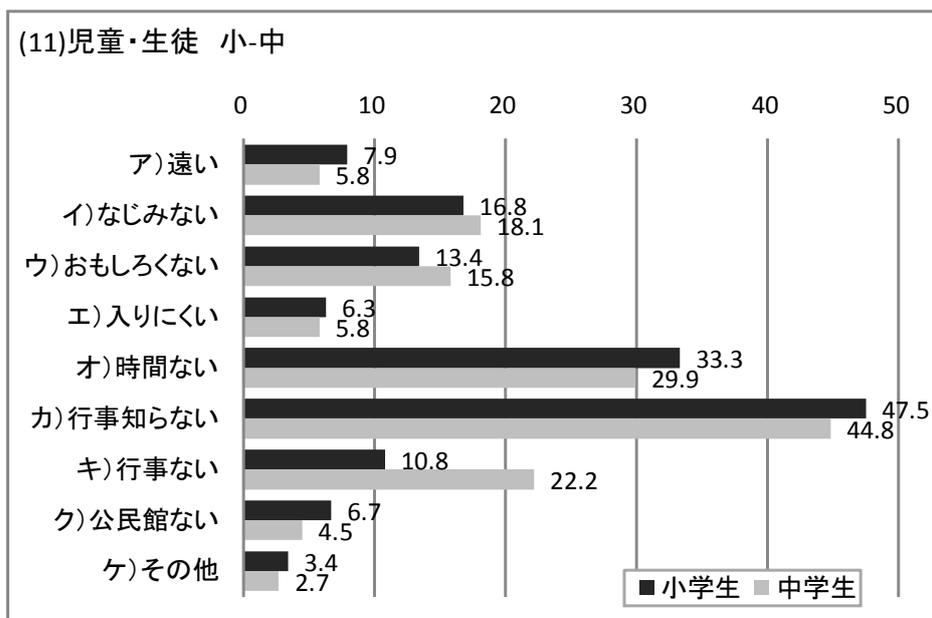


小学生の方が、参加している割合が高いが、それでも62%が「参加したことがない」と回答している。中学生は、82.7%とかなりの数が「参加したことがない」と回答している。

(11)前問(10)で、エ)と答えた人(参加したことがない人)だけお答えください。

あなたが参加しなかったのはなぜですか。理由をすべて選んでください。

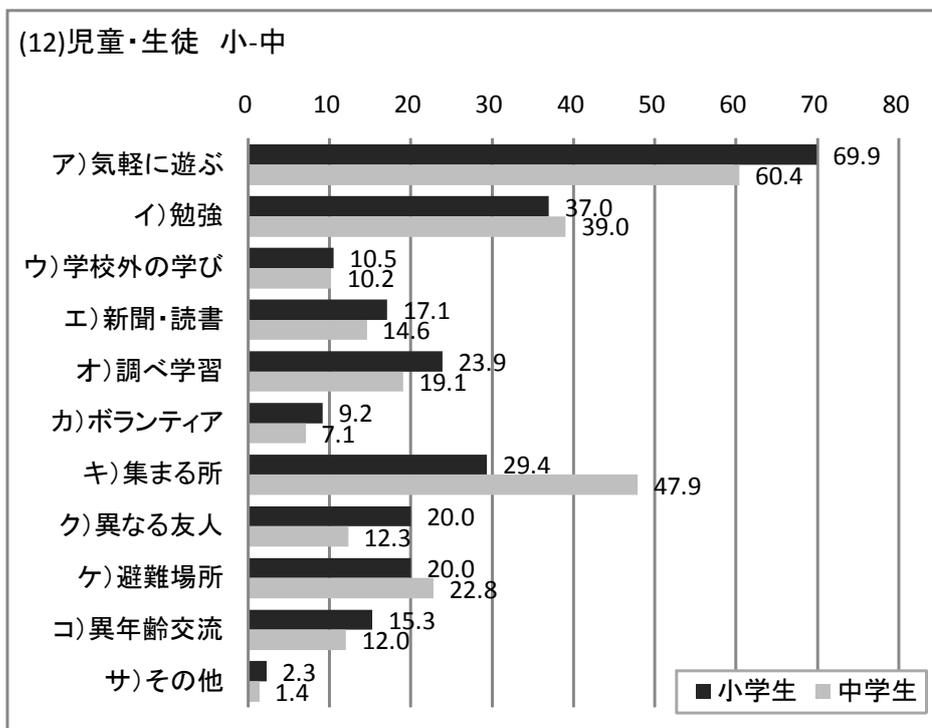
- ア)会場が遠いから イ)なじみがないから ウ)おもしろくなさそうだから
 エ)入りにくい雰囲気だから オ)時間が合わない(時間がない)から
 カ)どのような行事をやっているか知らないから キ)行事が行われていないから
 ク)公民館がないから ケ)その他



小学生・中学生とも、「行事知らない」「時間ない」が多くなっている。中学生では、「行事ない」が3位に入っている。また、「なじみない」「おもしろくない」も10%を超えている。

(12)あなたは、公民館がどのようなところだったらいいと思いますか。3つまで選んでください。

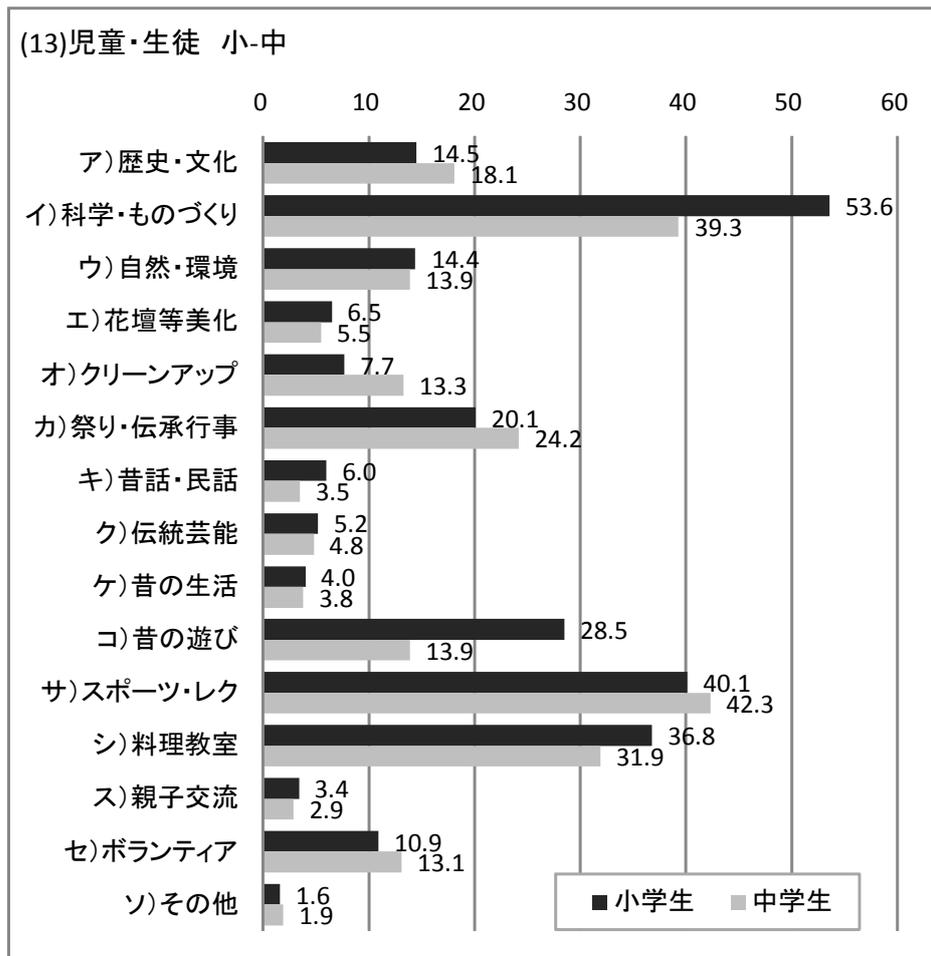
- ア) 友だちと気軽に遊べる場所 イ) ゆっくり勉強ができる場所
 ウ) 学校以外の行事や講座(勉強会)で学べる場所 エ) 新聞を読んだり読書したりできる場所
 オ) 宿題や調べ学習の手助けをしてくれる場所 カ) ボランティア活動をしたり手伝ったりしてくれる場所
 キ) みんなが何となく集まれる場所 ク) 学校とはちがう友だちをつくる場所
 ケ) 安全に避難する場所 コ) 大人・お年寄りや小さい子どもと交流する場所 サ) その他



小学生・中学生とも、「気軽に遊ぶ」「集まる場所」といった安全な居場所や、「勉強」「調べ学習」「新聞・読書」といった学ぶ場所を望む回答が多い。また、「避難場所」という回答もそれぞれ20%を超えている。

(13)あなたは、公民館でどのような行事や講座(勉強会)があればいいと思いますか。3つまで選んでください。

- ア) ふるさとの歴史や文化を調べる見学や活動 イ) 科学教室・ものづくり教室
 ウ) ふるさとの自然や環境について学ぶ エ) 花壇づくりなどの美化活動 オ) クリーンアップ活動
 カ) 祭りや古くから伝わる行事 キ) 昔話・民話などを聞く会 ク) 古くから伝わる芸能などの練習
 ケ) 昔の生活を知る会 コ) 昔の遊びを体験する会 サ) スポーツレクリエーション シ) 料理教室
 ス) 親子座談会・親と子のつどい セ) ボランティア活動 ソ) その他



小学生・中学生とも、「科学・ものづくり」「スポーツ・レク」「料理教室」が上位となっている。小学生では、「昔の遊び」「祭り・伝承行事」、中学生では「祭り・伝承行事」も20%を超え高くなっている。

◆市町村教育委員会用調査『(6)児童・生徒用「公民館について」(7)～(13)の結果について、感想・意見・分析・今後の方針等をご自由にお書きください。』の回答から

No	市町村名	内 容
1	鹿角市	本市の公民館利用状況は比較的高く、遊びの場、部活・スポ少としての活用が多い。一方で、公民館をどこか知らないという回答も多く、遠いという地理的な問題も公民館の利用を遠ざける一因となっている。公民館行事・講座への参加も比較的多いが、行事等が面白くないという回答率も高く、事業の企画、運営を考慮していく必要がある。中学生に関しては公民館の利用、行事への参加が低下しているので、利用者拡大を図る必要がある。
2	小坂町	「公民館へ一度も行っていない」小学生が0、中学生が10%、しかも小学生に至っては8割以上の児童が10回以上と答えているのは、率直にうれしいこと。

		<p>地域活動や部活、待ち合わせや遊びなどいろんな目的で利用されていることがわかった。また、小学生の行事・講座への参加率が高いのもうれしいこと。反面中学生の参加率が悪い、と言うよりも中学生対象の行事が組まれていないのは反省点である。</p> <p>参加しない理由で時間が無い、は仕方がないにしても「行事を知らない」が多いのは、PR不足ということ。計画的な行事の組み方と広報活動はこれからの課題。</p>
3	大館市	<p>公民館を利用したことがない人が過半数を占めており、また、行われている行事等についても知らない人が多い。当市の社会教育中期計画において、地域のコミュニティづくりの拠点としての公民館活動の充実を目標としていることから、公民館とより一層の連携を取りながらその活動を支援していきたい。</p>
4	北秋田市	<p>公民館へ行ったことがない、公民館がないという回答者が多いことに驚いている。市内児童の約1/3が放課後児童クラブに登録している実態や、クラブ活動等、公民館以外のところで過ごす児童が多いことも関連するのではないかと。</p> <p>公民館を会場とした児童向け活動を開設していないことも、公民館を身近に考えられないことの理由としてあげられる。</p>
6	能代市	<p>公民館が、地域活動の場として利用されなくなってきたことが、結果にあらわれている。これは、別の場所に拠点が移ったか、活動の拠点が分散したためか、地域活動自体が縮小したのか、さらに検討する必要がある。</p>
7	藤里町	<p>当町の公民館は町の中心で、児童生徒が帰宅の待ち合わせをする場所や友人たちとの遊びの場として多く利用されている。地域行事や活動の際は会場や休憩場所としているため、公民館として利用している意識がないのだと思う。科学・ものづくりや祭り・伝承行事、スポーツ・レクの行事に関して希望が多かったので、検討していきたい。</p>
8	三種町	<p>三種町の子どもたちは公民館の利用率がかなり低い。</p> <p>現状の公民館が施設の維持活動を中心に行っており、事業を企画・立案・実行することが少なくなっているためではないかと。</p>
9	八峰町	<p>合併により、公民館は峰浜地区に統合され一箇所となったことから、八森地区の子どもたちは行事等がないと利用する機会が無いと思われる。</p> <p>行事等お知らせや募集については、生涯学習だより並びにチラシ等でお知らせしているが、公民館等の区別が無いので区別できないのではないかとと思われる。</p> <p>アンケート結果を踏まえて子どもたちが何を求めているのかを検討する必要がある。</p>
10	秋田市	<p>小中学生にとって公民館やコミセンは「大人が活動する場所」というイメージしかないと思う。</p> <p>公民館を見学してもらうなど、まずは公民館を知ってもらうことが必要ではないかと。</p>
11	男鹿市	<p>中学生の公民館利用率が特に低い。高齢化の進む当市で、中学生を対象とした学級講座がないことが原因の一つと考えられる。また、調査対象が、男鹿南</p>

		中学校1校のみであるため、図書館が併設された船川港公民館を利用しており、公民館を読書・勉強の場として使用したとの割合が高くなっている。
13	五城目町	公民館が子どもたちにとってより身近に感じられ、恒常的に利用されるよう、施設環境の整備や事業の見直しを図らなければならない。
14	八郎潟町	公民館の必要性を感じている子どもたちは少ないようだ。魅力的な催しが少ないと言う事だろう。
15	井川町	公民館に行った児童生徒、小学生98%、中学生32%の数字は、中学生の生活時間からしてそうなのだろうと、改めて認識した。ただ、35%の中学生が公民館主催の行事に参加しているのは評価していいと考える。
17	由利本荘市	児童生徒は公民館を地域行事や活動の時に行くことが多いが、普段からもっと気楽に自由に立ち寄れるところとして利用したいと思っている。地域には公民館以外にそういう場がないので、その役割は大切だと思う。
18	にかほ市	小・中とも全県に比べて公民館利用頻度は高く、部活や図書館のほか放課後子ども教室等の児童クラブの会場として利用されている。公民館主催の行事に参加したことが無い児童たちは、知らなかったという回答が目立つ。児童が対象の行事で学校を通して通知をもらう以外はあまり自主的な情報収集をしていないのではないかと。放課後子ども教室に参加している児童・保護者へよびかけ、クチコミによって公民館の催しなどを広めるのも一つの方法かと思う。
19	大仙市	児童・生徒ともその来館頻度こそ若干の変動は見受けられたものの、概ね前回調査時に近い6割前後児童・生徒が来館している結果であった。しかし、事業や講座に参加した結果を問う設問に関しては、小学校児童こそ同程度の4割近い児童が何らかの事業に参加されていたが、中学校生徒に関してはわずか5%程度の生徒しか参加していないという結果となり、これは恐らく単純に公民館事業の企画において中学校生徒を対象とした事業があまり実施されていない、あるいはその存在を知らないことが、設問(11)の結果からも予測された。ただし、公民館そのものに対する印象を問う設問(11)においては、「入りにくい」という児童・生徒が幸いにもほとんどいないことから、今後は具体的に中学校生徒を対象とした事業・講座の企画や、その周知を徹底し呼びかけていく必要があるように思う。
20	仙北市	妥当な結果と思う。特にコメントなし。
21	美郷町	読書、勉強として公民館を訪れている人が50%近くいるため、今後も充実させていきたい。11月13日で公民館図書室は閉室したが、12月～「ほっとスペース」として学習する場や親子のスペースなどを設けている。
22	横手市	公民館については、小・中学校とも全県の平均より利用率が高くなっているが、中学校については、部活等の利用が多くなっていることから本来の公民館としての利用については、全県平均並みとなっている。小学校についても、待ち合わせでの利用が高くなっており、中学校と同様の傾向が読み取れる。
23	湯沢市	本市においては平成23年5月より、各地区公民館職員の完全嘱託職員化しており、体制が変わったことにより住民の公民館離れが進まないように努めている。

		しかしながら、子どもが公民館に「用事がない」、「なじみがない」、「どこか知らないなど」が前のアンケートより増えており、子どもと公民館との距離が出来てきている。
24	羽後町	小学生では半分以上の人が公民館へ行ったことがないようだが、中学生になると行動範囲が広がるせいか7割ぐらいの人は行ったことがあるようだ。 また、小中学生を対象とした公民館事業が少ないことも影響するのか、ほとんどの児童・生徒が参加したことがないようである。 小中学生ともに、科学・ものづくり教室、スポレク、料理教室などを公民館事業で望んでいるようなので、今後の事業へ取り込んでいく必要がある。
25	東成瀬村	現在、公民館は教育委員会内にあり施設としてはないため、公民館の行事等については公共施設を利用している。 アンケート結果については、今後の公民館活動の参考としていきたい。

◇公民館等用調査『(4) **児童・生徒用**「公民館について」(7)～(13)の結果について、感想・意見・分析・今後の方針等をご自由にお書きください。』の回答から

No	市町村	施設名	内 容
1	鹿角市	尾去沢市民センター	市民センターでは子どもたちを対象とした事業などを企画しており、施設利用度は高いと思います。また、センターには子どもたちが集まって勉強や遊びなど行なっております。 当センターでは子供達センター利用時の様子などを学校にも報告しており、時々学校の先生が巡回をして子どもたちの状況を確認しております。
2	鹿角市	十和田市民センター	放課後や休日に遊びに利用しても、事業に参加する児童・生徒が少ない。
3	小坂町	小坂公民館	小学校と隣接しているので、クラブ活動でも利用していたり、中学生の部活にも利用されているので公民館に足を運ぶことが多く、「遊ぶ」「まちあわせ」などでの利用率も高い。「来やすい場所」として子どもたちの中に定着しているのはうれしい。 これだけ多く利用されているとしたら、自由に好きなように遊ばせるだけでいいのか…この機を利用して何かできないか検討したい。
4	大館市	中央公民館	全県に比得当市では、児童生徒の公民館利用も少なく、中には公民館の場所すら知らない者や、公民館事業の開催を知らない者もいることが分かった。 この様な中で、事業参加者募集を行っても参加者確保

			に苦慮するのは当然であることから、まず、身近に感じらる公民館づくりが必要だと感じた。また、事業の内容や参加者募集のチラシ作りの際には、対象者が興味をもつような内容・構成を目指していかなければならないと思った。
5	大館市	比内公民館	データを見ると「一度も行ったことがない」、「用事がない」、「行事を知らない」が圧倒的に多いので、今後の事業計画では、それらの問題点について考慮していきたい。
7	大館市	田代公民館	アンケート結果より全県に比べ、児童・生徒の公民館利用が少なく、公民館事業の開催を知らない者もいることが分かった。 公民館へ「なじみがない」「入りにくい」等のイメージが、多く反映されているという感想を受けました。 公民館事業の内容や参加募集広報の仕方など、児童生徒が興味を持つような内容・方法を検討しなければならぬと感じました。
8	北秋田市	中央公民館	北秋田市においては、「この一年間に公民館に行っていない児童・生徒」が全県の平均を上回り、当館においても、地域の行事等で会場に使用される場合には来館するものの、一部の生徒・児童に限られていると感じる。大人の講座のみならず、小中学生が自ら興味を持って受講できるような学習の場を増やすなど、気軽に利用できる雰囲気作りが必要と考える。
10	北秋田市	合川公民館	今、小中学生をみていると特に平日は時間におわれながら生活を過ごしているように思われます。時間に若干余裕がある長期休業日に行事を行うしかないのではないかと。
11	北秋田市	森吉公民館	公民館に一度も行っていない人が多く、用事がなければ公民館に来館していないようです。(宣伝不足とも思われる) 気軽にものづくり教室や、スポーツはもちろん料理には親子での計画や、ふるさとの自然・環境を取り入れた物づくりなどへ気軽に立ち寄れるように工夫したい。
12	上小阿仁村	上小阿仁村生涯学習センター	統計上の分母が少ないため、利用率については年によって大幅に変動するものと思われる。 小中学生は、公民館を遊びの場、学習の場と感じているようである。ただし、当公民館は図書館を併設しているため、それによる回答が大きいと思われる。 今後も特に大きな方針転換等は無く現状の公民館で良いと思われる。ただし行事等の開催にあたっては、開催回数こそ変動はしないものの、子どもたちが参加したくなる

			ような行事を随時企画していく必要がある。
13	能代市	中央公民館	小学校高学年から中学生を対象とした公民館主催講座が少ないことから、小学校5年生では公民館の場所を知らない児童が多いことや、中学校2年生では待ち合わせ場所として公民館を利用する生徒が多いという分析結果につながっていると思われる。
14	能代市	南部公民館	南部公民館では、これまで子どもを対象とする事業・講座は実施していなかったが、食育に関連する親子の体験活動を今年度はじめて企画した。
15	能代市	二ツ井公民館	公民館の場所がわからなかったり、特に用事がなければ利用しない児童・生徒も多いようだ。 簡単に足を運んで気軽に楽しめる施設づくりと、公民館主催行事にもっと多くの児童生徒が参加するような企画と工夫も必要かと思われる。
16	藤里町	藤里町公民館	地域の行事や活動への参加について、学校を通して案内することで参加する児童・生徒が多くなることや、家族からの進めで参加していることが分かった。 今後は参加していない児童・生徒に対しての、「知らなかった」「面白くなかった」を解消できるための、わかりやすい文書の作成、楽しさを伝えられるような案内の作成を心がけたい。
17	三種町	山本公民館	公民館とは、小学生・中学生にはなじみが無いところだと思っていることがわかりました。でも近くの小学生数名は、毎年公民館の掃除(窓ふき・庭掃除・図書の整理等)ボランティア活動にきております。
18	三種町	八竜公民館	三種町で年に一度も公民館に行っていない小学生の割合が51.0%と高くなっていますが、学年別で調査すると、きっと高学年で公民館に行かなかった割合はもっと高くなるでしょう。 (11)の問で「時間がない」という答えが全県よりはるかに高い割合であったとおり、スポ少や塾通い等が一つの要因であると考えられます。 また、八竜地域では各集落に分館もあり、夏休みには地域子ども会で分館掃除、お楽しみ会等を開催しています。そのため、特に大きな行事がなければ公民館(旧町の中央公民館)に集まることはありません。 低学年は児童館、児童クラブを実施しているため、利用度は多少高くなっています。
20	八峰町	八峰町公民館	合併により、公民館は峰浜地区に統合され一箇所となったことから、八森地区の子どもたちは行事等がないと利

			<p>用する機会が無いと思われる。</p> <p>行事等お知らせや募集については、生涯学習だより並びにチラシ等でお知らせしているが、公民館等の区別が無いので区別できないのではないかとと思われる。</p> <p>アンケート結果を踏まえて子どもたちが何を求めているのかを検討する必要がある。</p>
21	秋田市	中央公民館	<p>事業を行っていても事業を知らない子どもが多いように感じたので、事業の周知の重要さがうかがえる。</p> <p>少しでも関心の持てる事業を取り入れ行っていければと思う。</p>
24	男鹿市	脇本公民館	<p>(11)の回答結果のように、講座を企画しても意外と参加してほしい子どもや保護者に知られていないという事が多くあった。当公民館で講座を企画した場合、市の広報や、公民館だよりにお知らせや募集を掲載しているが、知らない人が多く、周知の仕方に問題があると感じた。学校を通して等、子どもたちが直接見て、興味が持てるようなちらし作りやお知らせ方法を考えなければならないと考えている。</p>
26	潟上市	昭和公民館	<p>児童や生徒が集う施設として、地域には児童館もあります。児童館には遊び道具がありますが、公民館には児童や生徒を対象にした遊びの用具や場所がなく、また講座以外に来館する手段がない。</p>
27	五城目町	中央公民館	<p>頻度は別として、90%の児童が地域行事や活動、遊び、読書などで公民館に足を運んでいることは、児童の生活に公民館が大きく関わっていることの表れと感じる。しかし、一方で、公民館主催の行事や講座に関しては65%と低く、児童に関心のある行事や講座などニーズに応えられるよう、内容等の見直しが必要と考える。また、参加したことがない児童の70%が「行事を知らない」とあることから、周知方法について検討の必要を感じる。</p>
28	八郎潟町	八郎潟町公民館	<p>公民館について、「気軽に遊ぶ」場所で、「科学・ものづくり」「スポーツ・レク」などの講座があればどの要望が多い。児童・生徒は児童館や体育施設、一般の人は公民館でといった流れがあるように感じるので、児童・生徒が公民館で活動できるよう検討しなければいけない。</p>
31	由利本荘市	由利公民館	<p>調査対象校が当公民館管轄外の小学校も含まれているため、どの程度当公民館に対しての意見か判断が難しい(公民館というものをどうとらえているのかわかりにくい。</p> <p>集落単位の公民館のことを想定しているのではないかとと思われる)が、設問(12)(13)は、今後の事業計画の</p>

			参考とさせていただきたい。
32	由利本荘市	鳥海公民館	<p>「公民館行事に参加したことがない」理由として、近年では「時間がない」という点が半数以上であることが分かる。当地域においては、子どもの数が少ないながらも、スポーツ少年団活動が活発であり、親子とも忙しい休日を過ごしている。このため休日を中心として行われる公民館行事の参加率は低調となっている。一方、「参加しなかった」理由として、「おもしろくない・いやだ」が減少したことは、事業主催側として、多少「救われた感」がある。</p> <p>なお、自身が子どもの頃から比較すれば、近年は気軽に公民館に立ち寄る子どもが多いように感じる。これは、併設している図書館の充実(図書システムによる図書検索と市内各図書館からの取り寄せなどあり)がその一因と考えられるが、今後とも利用しやすい公民館として、親切・丁寧な対応を心がけるものとする。</p> <p>また、参加したことがある事業の中でクリーンアップは50%以上となっているが、これは県をはじめ地域あがでの取組の成果と考えられる。</p>
33	にかほ市	仁賀保公民館	<p>公民館で事業を計画しても部活や習い事と重なるため、参加できないという声を多く聞いていたが、アンケート結果をみて現代の子どもがいかに多忙であるかを改めて感じた。</p> <p>地域の人たちにどのような手伝いをして欲しいと思っているかについては体験的な学習の支援が多かったこともあり、地域の人とかかわりのある公民館が、児童生徒とのかかわりをつなぐような仕組みづくりが必要と思われる。また公民館が友だちと気軽に遊べる場所だという回答が多数だったので、気軽に立ち寄れる空間作りはもちろん放課後や休日の過ごし方が多様化しているが、実態に合わせた活動や広報活動を計画していきたい。</p>
34	にかほ市	金浦公民館	<p>公民館へ行く頻度が、かなり隔たりがあり、一度も行ってない大きな理由が「行事がわからない」というのが、いかにこちらのコマーシャル不足かを考えさせられました。広報媒体をもっと活用したり、学校の行事関係を照らし合わせるなど、もっと学校間との連絡を密にしていきたいと思えます。</p>
35	にかほ市	象潟公民館	<p>象潟公民館付近には、市役所・体育館・中学校があり、館内に図書室があることや、放課後児童育成事業、子ども会事業、中学生の待ち合わせなど、公民館を利用したことは多くあると思われる。児童生徒の公民館は、気軽に</p>

			<p>遊べる、何か出来るところのようだが、気軽さと言うのはどこまでをとらえているのか。</p> <p>多方面にわたり体験できる放課後児童育成事業等への登録者は少ない。スポ少活動の低年齢化、地域的なことから公民館までの交通手段も踏まえ、公民館の事業を身近に感じることができるような配慮も必要と思う。</p>
36	大仙市	大曲中央公民館	<p>子どもたちが色々な体験ができるよう、公民館を利用しやすいようにしていくことが重要だと思う。</p>
37	大仙市	花館公民館	<p>公民館が珠算・習字等の教室の会場となっているために、来館する小学生は多いが、小学生のうちだけであり、中学生になると来館する機会が大幅に減少する様である。</p>
38	大仙市	仙北公民館	<p>大仙市の小中学校のデータについては、「スポーツ・レクリエーション」の分野に関する要望や期待が低い傾向がある半面、「歴史理解」や「読み聞かせ」、「文化の伝承」への期待が大きい。</p> <p>「クリーンアップ」への参加の割合が高いのは、小中学校で学校行事として実施しているからではないか。</p> <p>公民館の利用実績においては「勉強・学習・読書のため」の割合が高いように見受けられるが、実情を鑑みるとそうした利用はごく少数であることをご承知おき頂きたい。</p> <p>昔であれば公民館は「集会所」であり「娯楽の発信基地」であったり「交流拠点」であったりしたと思うが、現代の子どもにとっては単なる「集合場所」や「何となく立ち寄る場所」という位置づけになりつつあるかもしれません。逆に、そうした利用形態でも楽しめる、何かいい企画やシステムは構築できないか検討している所です。</p>
39	大仙市	協和公民館	<p>アンケート結果から、公民館に行ったことがない、行事に参加したことがないという割合が多く、地域住民にとって親しみのない公民館の存在が浮き彫りとなっている。現在は、各施設の充実や娯楽の範囲も広がり、公民館に大きな期待を持っていないのが現実ではあるが、気軽に遊べるところ、勉強のできる場所から、公民館に足を運んでもらい親しみを持ってもらうことが大事だと思う。今後はさらに、公民館のアピールや行事の周知の仕方を工夫していかなければいけないと思われる。公民館側も、毎年同じ行事を開催していくのではなく、時代のニーズに合った行事の持ち方や課題を検討し、柔軟に取り組んでいかなければいけないのではと感じる。</p>
43	仙北市	角館東地区公民館	<p>今後は、子どもを対象とした講座を企画する必要がある</p>

			と考えるが、それと同時に親子講座や子どもとおじいちゃんやおばあちゃんを対象とした講座等の開催を検討したい。
44	美郷町	美郷町公民館	読書、勉強として公民館を訪れている人が50%近いいため、今後も充実させていきたい。11月13日で公民館図書室は閉室したが、12月～「ほっとスペース」として学習する場や親子のスペースなどを設けている。
45	横手市	中央公民館	公民館の行事を知らないという回答が多いことについて、特に日頃情報提供の手段を自分たちも悩み模索している課題であるため、思っていたとおりの結果がでたと思う。この1点がクリアできれば、今後公民館の有効活用が増加すると思われる。 ただ、以前の公民館の位置づけの意識のまますすめていても、現代の子どもたちが要求する公民館の存在からはかけ離れているため、公民館の意識改革を行政側が変化していかないといけないと思っている。
46	横手市	朝倉公民館	行事を知らないを選択した人が多く、広報手段を工夫しなければいけないと思った。また、当公民館では高齢者の参加率が多く、アンケートに記載されているような、科学・ものづくり、スポーツ・レクリエーションなどの子どもたちが参加したいと思える企画も考えて実施したい。
47	横手市	浅舞公民館	地域活動・行事には興味があるものの、情報が得られなかったり、時間がなかったりが理由で参加できずにいるようである。参加した子どもたちは、それぞれに良かったという感想を持っているので、広く周知できればよいと考える。
48	横手市	増田公民館	公民館事業について感心があまりないように感じる。増田の場合は公民館事業にかわる地域センターがある。そこで、住民が主導になり事業展開するという新しい試みを展開している。予算は市からの委託で行われある程度自由に事業を展開することができる。そのような方法で、子どもが興味を抱く事業展開をしていきたい。
49	横手市	十文字公民館	公民館に遊びに行くかと答えている人が多いことに少し驚いた。当公民館にはそのようなことが全くない。 行事に参加しない理由に、行事を知らないと答えている人が一番多いが、広報やチラシにもっと工夫が必要と感じる。
50	湯沢市	湯沢公民館	“公民館に行っていない人”の理由の部分で、“用事がない”、“なじみがない”、そして“どこにあるか知らない”との答えに、子どもたちにとって、“公民館が遠くなってしま

			<p>っている(距離的なものではなく)”と感じた。確かに、今(=現在)の子どもたちは、小学校4年生からスポーツ少年団活動が始まり、そのまま中学校では部活動…。“時間が合わない”以上に“時間がない”ということも背景にはあるのだろうが、とても残念に感じた部分である。</p> <p>“情報の提供”、そして“事業の企画、実施”等々、もっとももっと、子どもたちの関心を惹けるような、子どもたちよりのニーズに応えられるような、“魅力ある公民館づくり”が大切と考える。</p>
51	湯沢市	稲川公民館	<p>一度も公民館に足を運んだことのない子どもが半数以上おり、所在が分らない、馴染みないと回答が全県を大きく上回ることに衝撃を受けた。周知の努力が必要と感じる。</p> <p>特に中学生は時間がなく、参加率が望めないこともあり、事業を計画できない状況である。気軽に参加できる工夫が必要と考える。</p>
52	湯沢市	弁天公民館	<p>“用事がない”、“なじみがない”、さらには、“どこにあるか知らない”等の理由で、公民館に行っていないということは、非常に残念に思った。まだまだ“公民館”のPR不足、力不足を痛感している。</p> <p>当市においては平成23年5月より、各地区公民館“完全嘱託職員化”の体制となりスタートしているのだが、その嘱託職員に、今一度“公民館がどういう役割を担っているのか”、“地区住民にとって、どのような立場でなければいけないのか”を研修させる場が必要でないかと感じている。</p> <p>地域とともに、そして湯沢公民館とともに、一緒になって、“魅力ある公民館づくり”に努めていく必要があると考えている。</p>
53 54	羽後町	中央公民館・三輪公民館	<p>公民館に来たことのない児童・生徒がかなりいることや、公民館事業に参加したことがない児童・生徒が8割以上いることは、今後の事業展開を考えるうえでとても重要である。地域性もあり高齢者対象の事業が公民館活動の中心となり、小中学生対象の事業がほとんどないのが現状であり、次年度以降の事業計画を立てるうえで小中学校など関係機関との協議が必要である。</p>
55	東成瀬村	東成瀬公民館	<p>利用頻度はある程度発生していると考えるが、やはりニーズに応えた企画運営とその周知徹底が更なる利用に繋がるため、これら課題改善に向け努めていきたい。</p>